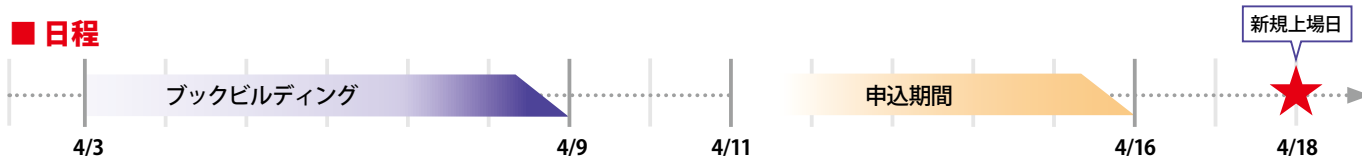


IPO銘柄 ジョイフル本田 (3191・東証上場)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3191	100 株	公募: 0.00 万株 売出: 381.46 万株 (OA29.00 万株)	2,450 円 ~ 2,700 円 (11.0 倍)	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券



北関東中心に超大型ホームセンターを展開

■ 事業内容

北関東を中心に超大型店を展開するホームセンター大手。売上規模は業界6位級で、店舗数は15（14年3月時点）。店舗は木材や建築資材、工具、ペットセンターなどの資材館と、インテリアや日用消耗品などの生活館に分かれている。「自前主義」を掲げ、子会社を通じてリフォーム、スポーツジム、車検・タイヤセンターなども展開。敷地内のテナントも他社に比べて自前でまかなうケースが多い。売上高構成比（13年6月期実績）は、住宅資材や住居インテリア、ガーデニング関連などの「住まい」が39.0%、生活雑貨やガソリン、ペットなどの「生活」が60.0%、その他が1.0%。

■ 特徴

家が一軒建てられるほどの商品数と在庫量を持ち、一般顧客だけでなくプロ需要にも応えられる専門性の高い売り場づくりを行っている。会社側によると、店舗の広さは業界平均の5.8倍、1店舗当たりの売上高は8.9倍、1顧客あたり売上高も業界平均を6割上回る。他のチェーンストアにない専門性の高い大型店舗で、固定客が多く広告宣伝費を抑制できていることも特徴。

アナリストコメント

■ 定量分析

14年6月期の連結経常利益は前期比9.5%減の104億3,600万円を計画する。復興特需の反動減が続いてきたが、それも足元で一巡してきており、四半期ベースの営業利益率が改善傾向にある。2月には大雪特需、3月は消費増税前の駆け込み需要が日用品などで高まった。

■ 定性分析

超大型店が特徴のユニークなビジネスモデルを掲げるが、ホームセンターは多くの上場企業が存在しており、市場評価がブレにくい。また、成熟産業の業界大手であり、いわゆるIPOらしさはない。北関東中心の事業展開であり、全国的な知名度の低さもネック。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約110億円。東証1部直接上場が観測される案件としては小粒な部類に入る。新株発行を行わない上場は、成長資金の調達場所としての意味合いが強いIPOマーケットで敬遠されがちだが、需給面への不安は乏しそうだ。（小泉健太）

■ 類似企業

ジョイフル本田(3191・東証上場)	予想PER11.0倍 (仮条件上限)
島忠 (8184・東証1部)	予想PER11.8倍
アークランドサカモト (9842・東証1部)	予想PER7.4倍

■ 引受証券

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券、野村證券、みずほ証券、常陽証券、マネックス証券、SMBC フレンド証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
12年6月期(実績)	181,727	—	12,563	—	6,563	—	255.0	10.0
13年6月期(実績)	176,833	▲2.7	11,533	▲8.2	6,920	5.4	268.9	20.0
14年6月期(会社予想)	176,714	▲0.1	10,436	▲9.5	6,343	▲8.3	245.8	50.0

※ 12 年 6 月期から連結決算。

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
12年6月期	25,806,440	168,033	133,634	12,000	5,192.6	79.5	5.0
13年6月期	25,806,440	172,619	140,331	12,000	5,452.8	81.3	5.1

大株主上位（上場前）

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	丸の内キャピタル第一号投資事業 有限責任組合	8,109,800	31.42
2	常陽銀行	971,300	3.76
3	本田 理	938,890	3.63
4	本田 晶子	841,851	3.26
5	本田 勇	750,033	2.90
6	飯田 佳典	700,000	2.71
6	本田 夏子	700,000	2.71
8	本田 直子	600,000	2.32
9	本田 守	500,000	1.93
9	本田 京子	500,000	1.93

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	矢ヶ崎 健一郎
専務取締役 営業本部長	小高 偉男
常務取締役 開発本部長	根本 一男
常務取締役 管理本部長 兼 総務 部長	矢口 幸夫
常務取締役 商品本部長	五頭 浩一
取締役 ホームセンター事業部長	中澤 正美
取締役 経理部長	吉原 悟郎
取締役 コンプライアンス担当	山川 征夫
取締役 相談役	松山 茂
取締役 相談役	長谷川 博紀
取締役	本田 理
取締役	千田 剛司
取締役	玉川 洋一
監査役（常勤）	鶴岡 義宣
監査役（常勤）	福島 良一
監査役	秋山 正明
監査役	小林 保弘
監査役	住田 昌弘

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO（Initial Public Offering）：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。